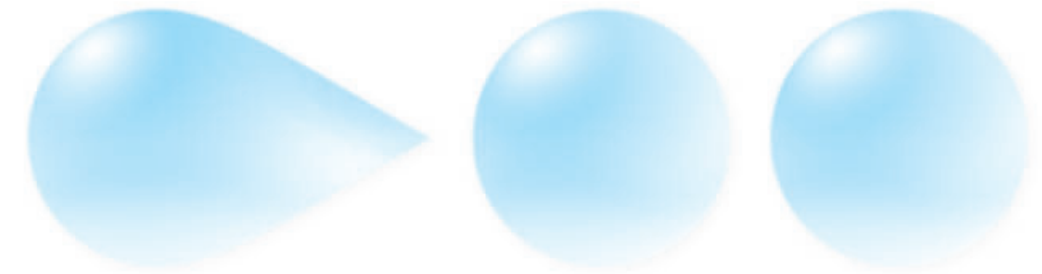


| 株式についてのご案内 | |
|------------|--|
| 事業年度 | 毎年4月1日から翌年3月31日まで |
| 定時株主総会 | 6月 |
| 基準日 | 定時株主総会の議決権 |
| | 3月31日 |
| | 期末配当 |
| 中間配当 | 9月30日 |
| | 9月30日 |
| 単元株式数 | 1,000株 |
| 株券に関する手数料 | 株式名義書換 無 料 |
| | 新券交付 株券1枚につき210円 (消費税額等を含む) |
| 公告方法 | 電子公告 |
| | 公告掲載アドレス http://www.organo.co.jp/ ただし、事故その他のやむを得ない事由 によって電子公告をすることができない 場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 |
| 株主名簿管理人 | 〒105-8574 東京都港区芝3丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社 |
| 同事務取扱所 | 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電 話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) |
| 同 取 次 所 | 中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店・全国各支店 |
| 上場証券取引所 | 東京証券取引所 (市場第一部) |

| 株式に関するお手続き用紙のご請求方法 |
|--|
| 住所変更、単元未満株式買取請求、単元未満株式買増請求、 名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、 下記株主名簿管理人中央三井信託銀行のフリーダイヤル又は ホームページをご利用ください。 |
| ●フリーダイヤル 0120-87-2031 (24時間受付：自動音声案内) |
| ●ホームページアドレス http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html |
| オルガノホームページ |
| 5月にホームページをリニューアルいたしました。 IR情報などをご提供しております。 |
|  |



Ecologically Clean



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8
経営企画部 TEL.03-5635-5111

ホームページアドレス <http://www.organo.co.jp/>



オルガノ株式会社

Ecologically Clean

オルガノは、1946年の創業以来、水そのものの価値、そして水の新たな価値の創造にこだわり続けてまいりました。

これからも、かけがえのない地球の未来を見つめ、「心」と「技」で水を有効に活用する技術に挑戦し続けることにより、あらゆる産業界の繁栄並びに人と環境の調和に貢献していきたいと考えます。



代表取締役社長兼CEO
橋本喜代志

1. 当連結会計年度の概況

株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご支援を賜わり厚く御礼申し上げます。さてここに当社の第62期事業年度（平成18年度）のご報告をさせていただきます。

おかげ様で当社にとりまして創立60周年の記念すべき年度を「史上最高益」でご報告できることになりました。

当期の当社グループの業績は、電子産業をはじめとする民間設備投資が堅調であったことに加え、企業の設備稼働率も高い水準にあったため、総じて好調に推移いたしました。さらに当社グループの総力をあげた拡販活動や、技術・研究体制の強化、コスト削減をはじめとする各種収益改善策などが実を結び、受注高857億円（前年同期比13.7%増）、売上高784億円（同3.7%増）、経常利益74億円（同69.7%増）、当期純利益44億円（同114.1%増）と増収増益となりました。特に経常利益及び当期純利益は、当社創立以来の最高益を記録いたしました。

当期の期末配当金につきましては、配当金4円に創立60周年記念配当4円を加え1株当たり8円とさせていただきます。これにより当期の年間配当金は1株当たり12円となりました。

2. 今後の経営方針

当社グループは、1946年の創立以来一貫して「水の価値の創造」にこだわりながら、その時代に応じた生活や産業に直結する水処理技術と製品を供給し続けてまいりました。戦後復興期には各地の浄水場や下水処理場等の官公需向け、高度成長期には火力・原子力発電所の電力分野や石油精製分野向け、また近年には各種エレクトロニクス分野向けなどです。

21世紀に入った今日、グローバルな経済成長は、地球規模での水資源や環境問題を引き起こしており、当社グループが、60年の経験と実績の上に常に新たな技術や製品を加えながら活躍できる分野は、ますます広が

がっていると考えております。

幸い、過去数年間、当社グループは基本的な組織や運営体制を見直すとともに、研究開発・技術生産部門の増強や全国の販売やメンテナンス体制を整備してまいりました。

同時に事業の選択と集中により、国内ではソリューション事業の拡大を含めた民間部門へのシフトを推進、海外拠点も将来の成長が期待できる中国、台湾、マレーシアへの重点強化を実施いたしました。これにより、絶え間なく変化する事業環境への柔軟な対応とお客様のニーズに応えるコスト・品質・技術・サービスの提供が可能となりました。

当社グループにとりまして、次期は、まさに新たな時代への再スタートの年ではありますが、全社員一丸となって「成長への新たな挑戦」をスローガンに将来に向けたチャレンジをしてまいります。

そして、目指すべきゴールを「連結売上高1,000億円、経常利益100億円」とイメージし、収益性を保持しつつ成長路線を取り続けていきたいと考えております。

3. 次期の見通し

一般的な経済環境は、電子産業の大型物件投資に先行き不透明感があることや、世界的な資源・資材価格高騰の長期化等の懸念材料もありますが、総じて堅調に推移していくものと予想しております。

当社グループは新しい組織体制のもと、積極的な拡販努力や継続的なコストダウン・経営の効率化を推進することなどに取組んでまいります。

4. 最後に

新しい次の60年の進化に向けてスタートしたオルガノグループに対し、株主の皆様におかれましては、ますますのご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成19年6月

連結対象グループ会社



沿革

| | |
|--------------|---|
| 1946年（昭和21年） | 株式会社日本オルガノ商會を長野県諏訪市で創立 |
| 1951年（昭和26年） | 日本最初の大規模純水装置を完成 |
| 1952年（昭和27年） | ローム・アンド・ハース社（米国）と提携し、イオン交換樹脂「アンバーライト」の日本総代理店となる |
| 1961年（昭和36年） | 東証2部に上場 |
| 1966年（昭和41年） | オルガノ株式会社と商号を変更 |
| 1985年（昭和60年） | 東証1部に指定替え 埼玉県幸手市に食品加工材の調合を行う幸手工場を完成 |
| 1986年（昭和61年） | 埼玉県戸田市に総合研究所[現開発センター]を完成 |
| 1989年（平成元年） | 茨城県つくば市に、イオン交換樹脂の精製を行うつくば工場を完成 |
| 2000年（平成12年） | 福島県いわき市に、水処理装置ユニットの製造を行ういわき工場を完成 |
| 2003年（平成15年） | 中国蘇州市にオルガノ（蘇州）水処理有限公司を設立 |
| 2005年（平成17年） | 神奈川県相模原市に開発センターを移転 |
| 2006年（平成18年） | 創立60周年 |

●連結貸借対照表 (要旨)

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 期 (平成19年3月31日現在) | 前 期 (平成18年3月31日現在) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 資 産 の 部 | | |
| 流動資産 | 59,497 | 46,824 |
| 固定資産 | 28,209 | 29,719 |
| 資 産 合 計 | 87,706 | 76,543 |
| 負 債 の 部 | | |
| 流動負債 | 41,162 | 32,113 |
| 固定負債 | 8,555 | 10,055 |
| 負 債 合 計 | 49,717 | 42,168 |
| 少数株主持分 | — | 308 |
| 資 本 の 部 | | |
| 資本金 | — | 8,225 |
| 剰余金 | — | 7,508 |
| 利益剰余金 | — | 17,437 |
| その他の有価証券評価差額 | — | 1,060 |
| 為替換算調整勘定 | — | △ 72 |
| 自己株式 | — | △ 93 |
| 資 本 合 計 | — | 34,066 |
| 負債、少数株主持分及び資本合計 | — | 76,543 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 37,066 | — |
| 資本剰余金 | 8,225 | — |
| 利益剰余金 | 7,509 | — |
| 利益剰余金 | 21,477 | — |
| 自己株式 | △ 145 | — |
| 評価・換算差額等 | 566 | — |
| その他の有価証券評価差額 | 580 | — |
| 為替換算調整勘定 | △ 13 | — |
| 少数株主持分 | 356 | — |
| 純 資 産 合 計 | 37,989 | — |
| 負債純資産合計 | 87,706 | — |

●連結株主資本等変動計算書(要旨)

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| | 株 主 資 本 | | | | | 評価・換算 差額等 | 少数株主 持分 | 純資産合計 |
|---------------------------|---------|-------|--------|-------|--------|--------------|------------|--------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | 利益剰余金 | 自己株式 | 株主資本合計 | | | |
| 平成18年3月31日残高 | 8,225 | 7,508 | 17,437 | △ 93 | 33,078 | 988 | 308 | 34,375 |
| 当期中の変動額 | | | | | | | | |
| 剰余金の配当(注) | — | — | △ 462 | — | △ 462 | — | — | △ 462 |
| 役員賞与(注) | — | — | △ 79 | — | △ 79 | — | — | △ 79 |
| 当期純利益 | — | — | 4,475 | — | 4,475 | — | — | 4,475 |
| 連結会社の増加に伴う増加高 | — | — | 105 | — | 105 | — | — | 105 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | △ 53 | △ 53 | — | — | △ 53 |
| 自己株式の処分 | — | 0 | — | 1 | 2 | — | — | 2 |
| 株主資本以外の項目の 当期中の変動額(純額) | — | — | — | — | — | △ 422 | 47 | △ 374 |
| 当期中の変動額合計 | — | 0 | 4,040 | △ 52 | 3,988 | △ 422 | 47 | 3,613 |
| 平成19年3月31日残高 | 8,225 | 7,509 | 21,477 | △ 145 | 37,066 | 566 | 356 | 37,989 |

(注) 剰余金の配当231百万円及び役員賞与は、平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

●連結損益計算書 (要旨)

(単位：百万円)

| 科 目 | 当 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで) | 前 期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで) |
|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高 | 78,467 | 75,700 |
| 売上原価 | 56,789 | 56,974 |
| 売上総利益 | 21,677 | 18,726 |
| 販売費及び一般管理費 | 14,154 | 14,401 |
| 営 業 利 益 | 7,522 | 4,324 |
| 営業外収益 | 189 | 274 |
| 営業外費用 | 284 | 222 |
| 経 常 利 益 | 7,428 | 4,376 |
| 特別利益 | 436 | 201 |
| 特別損失 | 334 | 288 |
| 税金等調整前当期純利益 | 7,529 | 4,289 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 3,397 | 1,445 |
| 法人税等調整額 | △ 373 | 715 |
| 少数株主利益 | 29 | 37 |
| 当 期 純 利 益 | 4,475 | 2,090 |

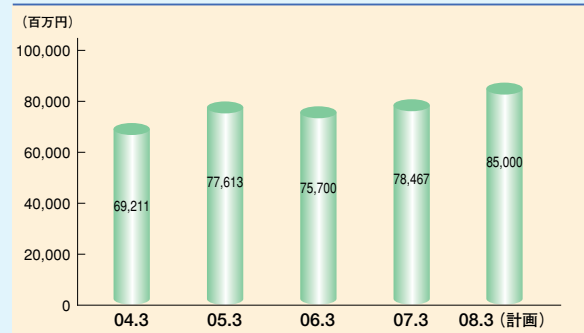
●連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

(単位：百万円)

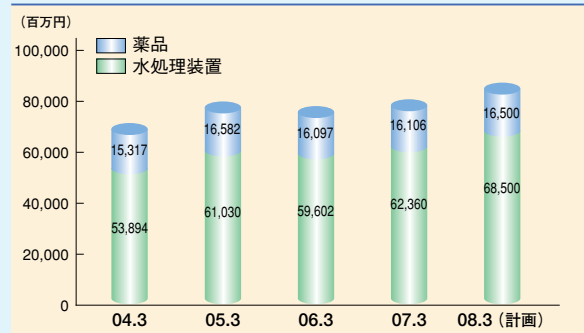
| 科 目 | 当 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで) | 前 期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで) |
|----------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 850 | 4,269 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | 785 | △ 1,298 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | △ 1,660 | △ 3,622 |
| 現金及び現金同等物に係る換算差額 | 9 | 31 |
| 現金及び現金同等物の減少額 | △ 14 | △ 620 |
| 現金及び現金同等物の期首残高 | 5,125 | 5,705 |
| 新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額 | 127 | 40 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 5,237 | 5,125 |

連結決算ハイライト

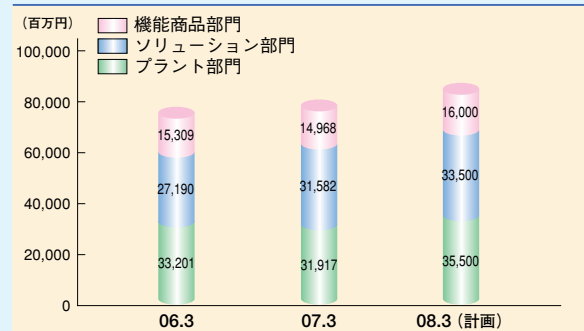
●売上高



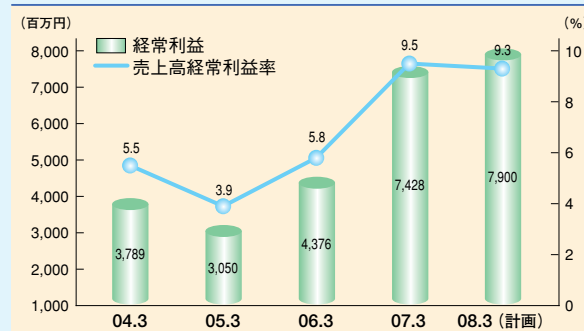
●セグメント別売上高



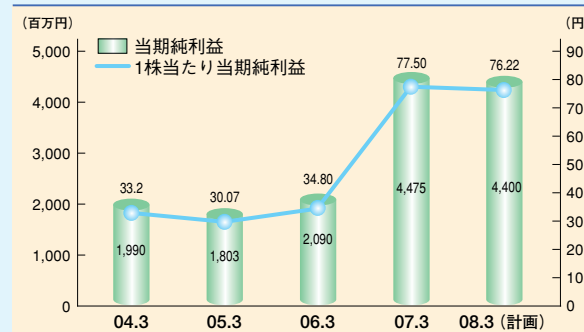
●部門別売上高



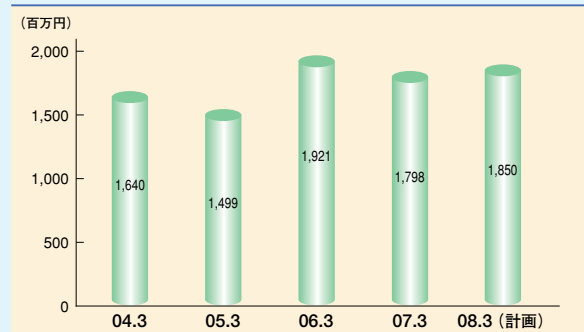
●経常利益／売上高経常利益率



●当期純利益／1株当たり当期純利益



●技術研究費



単体決算の概要

●貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

| 科目 | 当 期 (平成19年3月31日現在) | 前 期 (平成18年3月31日現在) |
|-----------------|-----------------------|-----------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | 47,493 | 38,619 |
| 固定資産 | 26,018 | 27,486 |
| 資産合計 | 73,511 | 66,105 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | 34,098 | 27,819 |
| 固定負債 | 7,340 | 8,688 |
| 負債合計 | 41,438 | 36,508 |
| 資本の部 | | |
| 資本金 | — | 8,225 |
| 資本剰余金 | — | 7,508 |
| 利益剰余金 | — | 12,910 |
| その他有価証券評価差額金 | — | 1,046 |
| 自己株式 | — | △ 93 |
| 資本合計 | — | 29,597 |
| 負債及び資本合計 | — | 66,105 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | 31,514 | — |
| 資本剰余金 | 8,225 | — |
| 資本剰余金 | 7,509 | — |
| 利益剰余金 | 15,925 | — |
| 自己株式 | △ 145 | — |
| 評価・換算差額等 | 558 | — |
| その他有価証券評価差額金 | 558 | — |
| 純資産合計 | 32,073 | — |
| 負債純資産合計 | 73,511 | — |

●損益計算書(要旨)

(単位：百万円)

| 科目 | 当 期 (平成18年4月1日から 平成19年3月31日まで) | 前 期 (平成17年4月1日から 平成18年3月31日まで) |
|-----------------|--------------------------------------|--------------------------------------|
| 売上高 | 59,510 | 60,826 |
| 売上原価 | 44,539 | 47,616 |
| 売上総利益 | 14,971 | 13,210 |
| 販売費及び一般管理費 | 9,870 | 10,524 |
| 営業利益 | 5,100 | 2,686 |
| 営業外収益 | 600 | 606 |
| 営業外費用 | 197 | 197 |
| 経常利益 | 5,502 | 3,095 |
| 特別利益 | 451 | 192 |
| 特別損失 | 295 | 223 |
| 税引前当期純利益 | 5,658 | 3,064 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 2,463 | 875 |
| 法人税等調整額 | △ 317 | 711 |
| 当期純利益 | 3,513 | 1,477 |
| 前期繰越利益 | — | 535 |
| 中間配当額 | — | 231 |
| 当期末処分利益 | — | 1,782 |

●株主資本等変動計算書(要旨)

(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

(単位：百万円)

| | 株 主 資 本 | | | | | | 評価・換算 差額等 | 純資産合計 | |
|-----------------------|----------|----------|----------|----------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|
| | 資本金 | 資本剰余金 | | 利益剰余金 | | 自己株式 | | | |
| | 資本準備金 | その他資本剰余金 | 利益準備金 | その他利益剰余金 | | 株主資本 合計 | | | |
| 平成18年3月31日残高 | 8,225 | 7,508 | — | 832 | 12,078 | △ 93 | 28,550 | 1,046 | 29,597 |
| 当期中の変動額 | | | | | | | | | |
| 剰余金の配当(注) | — | — | — | — | △ 462 | — | △ 462 | — | △ 462 |
| 役員賞与(注) | — | — | — | — | △ 36 | — | △ 36 | — | △ 36 |
| 別途積立金の積立(注) | — | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 当期純利益 | — | — | — | — | 3,513 | — | 3,513 | — | 3,513 |
| 自己株式の取得 | — | — | — | — | — | △ 53 | △ 53 | — | △ 53 |
| 自己株式の処分 | — | — | 0 | — | — | 1 | 2 | — | 2 |
| 株主資本以外の項目の当期中の変動額(純額) | — | — | — | — | — | — | — | △ 488 | △ 488 |
| 当期中の変動額合計 | — | — | 0 | — | 3,015 | △ 52 | 2,963 | △ 488 | 2,475 |
| 平成19年3月31日残高 | 8,225 | 7,508 | 0 | 832 | 15,093 | △ 145 | 31,514 | 558 | 32,073 |

(注) 剰余金の配当231百万円、役員賞与及び別途積立金の積立は、平成18年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

●モノづくり強化のため、いわき工場増設へ

モノづくりの強化のため、平成18年8月にいわき工場の管理棟を増築し、管理棟の床面積が従来の2倍になりました。

増築した管理棟にはIEC（いわきエンジニアリングセンター）を新設しました。IECに設計技術者の2/3を集約し、PDMS（3次元CADシステム）を全面的に導入。

3次元設計により効率化を進めるとともに、設計技術者の集約による生産キャパシティの増大、技術の継承、人材育成を計ります。合わせて装置のユニット化、軽量化等のコストダウン施策も推進します。

また平成19年度に工場棟増設に着手し、従来の倍以上の面積に拡充します。

主力製品である標準型超純水ユニットMPUシリーズなどのユニット組立室を確保し、資材在庫、製品在庫を持つことにより装置の短納期化をすすめ、お客様のニーズに合わせた納期の実現に努めます。

【いわき工場概要】

- 竣工：平成12年4月
- 所在地：〒970-1144
福島県いわき市好間工業団地1丁目66番
- 敷地面積：約82,900平方メートル
- 管理棟床面積：約2,000平方メートル
(平成18年増築面積約960平方メートル含む)
- 工場棟床面積：現在 約5,700平方メートル
増設予定 約8,000平方メートル
合計 約13,700平方メートル



管理棟増築後



PDMS（3次元CAD）作業風景



ユニット組立風景

●開発センターを1箇所に集約

研究体制の強化と拡充のため、今まで2箇所に分かれていた開発センターを、神奈川県相模原市1箇所に集約することになりました。

現在の建物では手狭なため、クリーンルームを備えた超純水分析を行う研究棟1棟と、パイロットプラントによる実験が可能な大型実験棟1棟の計2棟を増設します。

完成は平成20年5月の予定です。



現在の開発センター

【開発センター概要】

- 竣工：平成17年3月
- 所在地：〒229-0012
神奈川県相模原市西大沼4丁目4番1号
- 敷地面積：約105,000平方メートル
- 床面積：現在 約13,000平方メートル
増設予定 約4,400平方メートル
合計 約17,400平方メートル



増設予定地

●超純水って何？

水の浄化に関する要素技術の全てを組み合わせ、限りなくH₂Oに近づけた高純度水のことです。水に含まれる固形物や塩類はもちろん、溶けているガスも除いて“超”高純度に処理します。オルガノがもつ最高水準の分析技術も超純水製造に不可欠です。

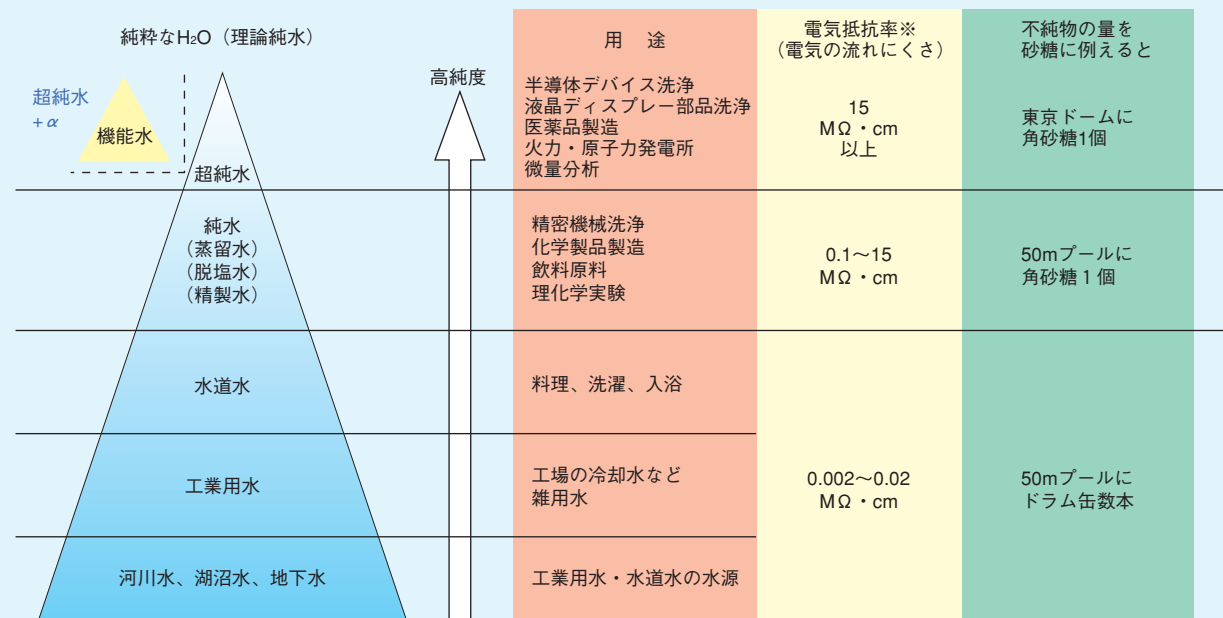
●超純水の用途は？

- 微小なゴミも許されない半導体ウェハーや液晶表面の洗浄用水
- 発電所の安定運転に必要な発電用タービンの蒸気発生器用水
- あらゆる場面で安全が要求される医療・製薬産業の精製水・注射用水
- 分析レベルに直結する分析化学微量分析用ブランク水

など様々な分野に用いられています。



クリーンルームでの超純水微量物質分析



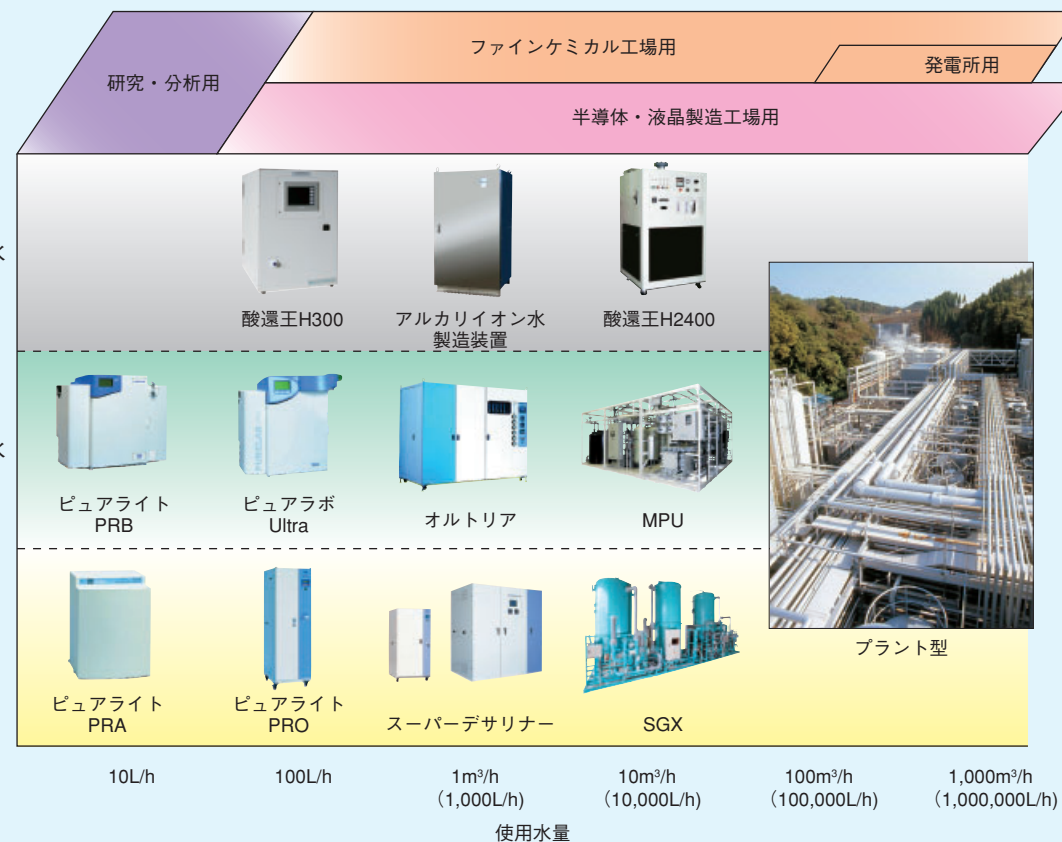
※不純物が多いほど電気が流れやすく電気抵抗率が小さい

●一滴から数千トンまで

研究・分析用の卓上型から半導体・液晶工場のプラント型まで、あらゆる水量を産業界の要望に応じた最高純度の水でサポートします。

●機能水製造装置（酸還王）をラインアップ

超純水をベースに水素やオゾンなどガスを溶解して洗浄力を向上させた機能水は、洗浄工程での薬品使用量低減、洗浄時間短縮に貢献します。主に半導体工場で用いられており、近年、食品分野での使用も拡大しています。



プラント型

オルガノの事業には、水処理装置の販売を行う「プラント事業」、納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「ソリューション事業」、標準製品や薬品の販売を行う「機能商品事業」があります。

プラント事業

●電子産業向け

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄用の超純水は、日本のトップメーカーをはじめ海外メーカーでも用いられています。工場の大型化に合わせ、1時間あたり2,000m³という大流量への要求にも応えると共に、環境へ配慮した排水を出さないクローズド化にも取り組んでいます。

●一般産業向け

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプや繊維・染色、自動車、メッキ工業など、あらゆる産業で目的に応じて最も効果的に装置を組み合わせ、効率よくプロセス用水を製造・処理するシステムを提供しています。

●発電所向け

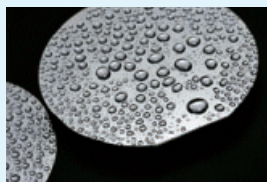
高い信頼性を求められる火力・原子力国内発電所向け水処理プラント。この分野でのマーケットシェアは7割に達し、特に原子力発電所向け水処理設備ではさらに高いシェアを有します。

●上・下水道向け

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。それを処理する浄水場、下水処理場では、浄水処理や生物処理、活性炭やオゾンによる高度処理、排水処理などオルガノの得意な技術が活用されています。

●医療・薬品向け

注射用水をつくる蒸留設備や製薬設備を細菌から守る純水蒸気発生器など、一貫した思想の品質管理のもとに効率よく各種技術を組み合わせ、高純度でパイロジェン（発熱性物質）を含まない安心の水をつくります。



ソリューション事業

●メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

●提案型サービス

既設水処理装置の設備診断と合わせて改善・改良提案及び薬品使用量低減、廃棄物削減など環境へ配慮した提案を行っています。

水処理アウトソーシング受託事業

●包括メンテナンス

お客様工場内の水処理装置の点検、消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括で引き受けます。

●運転管理

お客様工場の設備担当者に代わり、オルガノが運転担当者を派遣し、水処理装置の運転管理を行います。

●処理水供給

お客様工場内へオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。



●遠隔監視

オルガノ本社に監視センターを設置し、24時間365日いつでも水処理装置の警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。

機能商品事業

●標準製品（レディメイド商品）：汎用カタログ製品である小形水処理装置はユーザーニーズに合わせて広く用いられ、様々な機器を組み合わせることができるトレイン化も好評です。

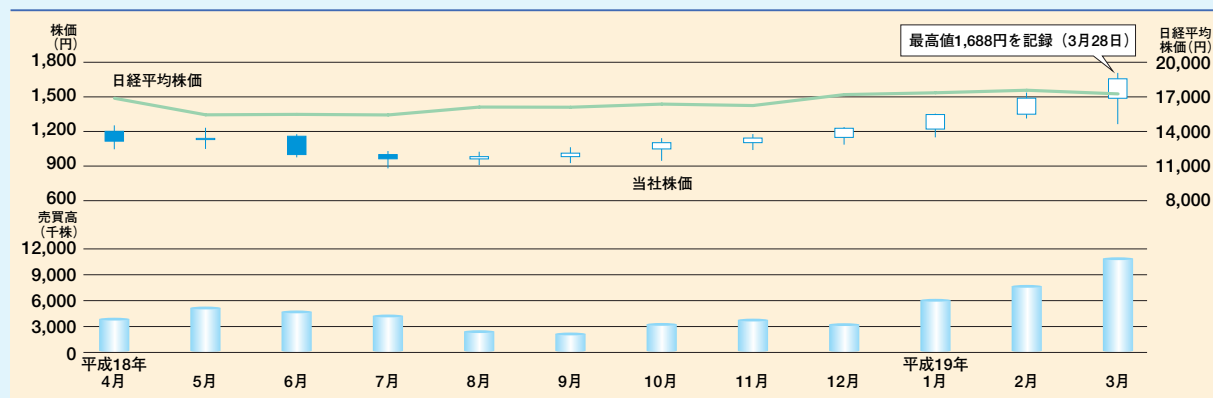
●水処理薬品：冷却水・ボイラー・排水処理剤など多様な薬品をラインアップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。

●食品加工材：健康志向や簡便化志向など食品の付加価値を高める品質改良剤、食品素材を食品メーカーへ提供しています。

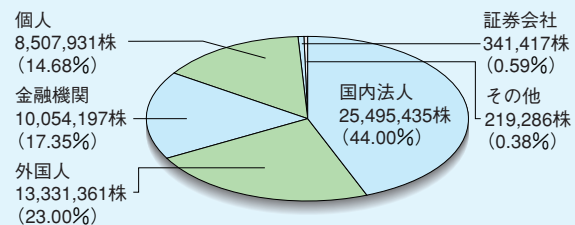
- 発行可能株式総数 126,960,000株
- 発行済株式総数 57,949,627株
- 株主総数 4,986名
- 大株主(上位10名)

| 株主名 | 持株数(千株) | 出資比率(%) |
|--|---------|---------|
| 東ソ一株式会社 | 23,877 | 41.20 |
| ビクテ アンド シー ヨーロッパ イスエー | 3,510 | 6.05 |
| 日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口) | 1,846 | 3.18 |
| 株式会社みずほ銀行 | 1,773 | 3.06 |
| モルガン・スタンレー・アンド・カンパニー・ インターナショナル・リミテッド | 1,394 | 2.40 |
| ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505019 | 919 | 1.58 |
| 日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口) | 906 | 1.56 |
| ユービーエス エイジー ロンドン アジア エクイティーズ | 905 | 1.56 |
| みずほ信託銀行株式会社 | 775 | 1.33 |
| ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン イス エル オムコパス アカウ | 775 | 1.33 |

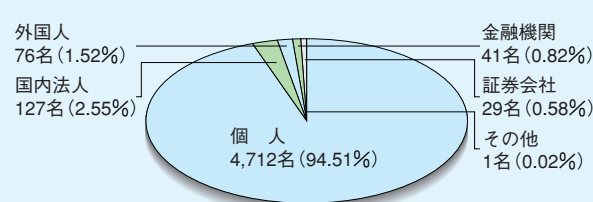
●株価及び売買高の推移



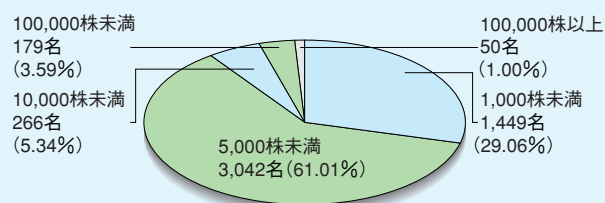
●所有者別株式分布状況



●所有者別株主分布状況



●所有数別株主分布状況



- 商号 オルガノ株式会社
ORGANO CORPORATION
- 創業 昭和21年5月1日
- 資本金 8,225,499,312円
- 本店所在地 東京都江東区新砂1丁目2番8号
- 従業員数 667名(連結 1,566名)

- 主要な事業所 本 社
開 発 セ ン タ ー
つ く ば 工 場
い わ き 工 場
幸 手 工 場
周 南 事 業 所
北 海 道 支 店
東 北 支 店
中 部 支 店
関 西 支 店
中 国 支 店
九 州 支 店
台 湾 支 店

●グループ会社

- (国 内)
オルガノ北海道株式会社 北海道
オルガノ東北株式会社 宮城県
オルガノ東京株式会社 東京都
オルガノ中部株式会社 愛知県
オルガノ関西株式会社 大阪府
オルガノ九州株式会社 福岡県
オルガノプラントサービス株式会社 東京都
オルガノダニスコフードテクノ株式会社 東京都
オルガノアクティ株式会社 東京都
オルガノ山下薬品株式会社 広島県
オルガノ・ハイテック有限会社 山口県
環境テクノ株式会社 東京都
東北電機鉄工株式会社 山形県

●主要な事業内容

当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種用排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品類の製造、販売を主な事業としております。

●役員 (平成19年6月28日現在)

- *取締役会長 傳 田 正 彦
- *取締役社長兼CEO 橋 本 喜 代 志
- 取締役兼常務執行役員 近 藤 昭 夫
- 取締役兼常務執行役員 田 中 康 彦
- 取締役兼常務執行役員 鬼 頭 和 夫
- 取締役兼常務執行役員 飯 塚 廣 廣
- 取締役兼執行役員 中 村 聖 和
- 取 締 役 佐 々 木 博 朗
- 常 勤 監 査 役 太 期 敏 之
- 常 勤 監 査 役 小 柴 勲 彦
- 監 査 役 川 村 克 彦
- 監 査 役 吉 田 正 俊

(注) *印は代表取締役であります。

(海外現地法人)

- Organo (Asia) Sdn.Bhd. マレーシア
- オルガノ
奥加諾(蘇州)水処理有限公司 中 国
- オルガノ・テクノロジー
奥璐佳瑙科技股份有限公司 台 湾
- Organo (Singapore) Pte.Ltd. シンガポール
- Organo (Thailand) Co., Ltd. タ イ
- オルガノ
奥加諾(上海)水処理有限公司 中 国
- Organo (UK) Ltd. イギリス
- PT. Organo Indonesia インドネシア